

福島建設工業新聞

発行所
福島市西中央2丁目59
(郵便番号960-8074)

福島建設工業新聞社
電話 (024) 534-7456 (大代表)
©福島建設工業新聞社
（社）日本専門新聞協会加盟紙

ホームページ
ホームページアドレス
<http://www.fk-news.co.jp>
e-mail
hensyu@fk-news.co.jp



トンネル、東根川橋と構造物が連続する。
検討するに当たり、トンネル設計を「柱田トンネル詳細設計業務」として発注する。簡易公募型競争（総合評価）で第2四半期の入札を予定しており、準備が整い次第、入札手続きに入る。設計期間は約7カ月を見込んでいます。

切土工による道路詳細設計は完了しており、トンネル詳細設計を進めな

相双建設 復興へ大きな一歩

浪江町内の3海岸で着工式



浪江町内で行う海岸災害復旧工事の安全祈願祭と着工式が3日、棚塩字前畑地内で行われ、出席者は町の復興・再生に期待を寄せた。

本格的な災害復旧に入るのは、福島第一原発から10キロ圏内の棚塩地区海岸、請戸中浜地区海岸、浪江中浜地区海岸の3カ所。25年6月の災害査定

を経て、相双建設事務所は今年1月に棚塩地区海岸1、4工区を横山建設、浪江中浜地区海岸1工区を田中建設と随意契約した。

工事は波の威力を弱める離岸堤や人工リーフ工、消波工など沖合施設から着手し、堤防はTP（標準海面高）7・2メートルまで高上げる。堤防の位置は以前より30メートル後退させ砂浜を広げる計画。事業は29年度までを予定している。

式典には約50人が出席。安全祈願祭では室井

良文県土木部技監、馬場有浪江町長、施工者の横山佳弘横山建設社長、木下弘行田中建設社長らがクワ入れを行った。横山社長は「地域の恒久的な復旧が望まれており、全力を挙げて取り組む」とあいさつした。

着工式では室井技監が「堤防の着工は復興に向けた大きな一歩となる。被災地域の生活を取り戻すためインフラ復旧を進める」と式辞を述べた。

着工セレモニーでは、代表者が開始ボタンを押し、大型クレーンが記念

の波消しブロックを海岸に据え付けた。
着工した海岸の復旧概要は次の通り。
◆棚塩地区海岸Ⅱ復旧1・8メートル、人工リーフ2基（4ブロック2500個）、離岸堤1基（16ブロック1270個）
◆浪江中浜地区海岸Ⅱ同488・5メートル、消波工7基（4ブロック1300個再設置）

掘点へ発生土活

相馬福島道路 今年度8万m³提供



と握手する菅野村長（左）と永尾所長

会所（2100平方メートル）の造成（福相建設施工）を先行する。同施設は東芝の設計施工で今年度内完成予定。

線とは高低差があり、造成に大量の盛土材が必要。そのため、発生土の活用先を探していた福島河川

う。太陽光発電施設用地の造成（福相建設施工）を先行する。同施設は東芝の設計施工で今年度内完成予定。

村は掘点整備事業全体で計16万立方メートルの土砂が必要と想定しており、2年度も継続を求める。同「未来への継承」「世界との記録や資料の収集・保

の継承など理念

間報告案提示 8月には最終答申

福島に心を寄せる人々、団体と連携し、地域コミュニティや文化・伝統の再生、復興を担う人材育成等による「復興の加速への寄与」。

情報発信拠点、アーカイブ拠点、復興加速化拠点となるため①正確でリアルタイムな情報発信②訪れる多くの人々に効果的に伝える展示③後世に正しく伝える教育④地域コミュニティの再生に資するさまざまな交流⑤復興を担う人材育成⑥災害の記録や資料の収集・保

害の記録・資料・写真・映像等をデジタル化し、ネット発信するほか、国会図書館やJAEA等のアーカイブサイトと連携。インベーションコー

スト構想による国際産学連携3拠点とともに、国・地方公共団体、大学、博物館・資料館、協力企業、NPOなども連携し総合的な東日本大震災・原子力災害アーカイブサイトを構築する。東京電力の廃炉作業進捗も逐次提供を受ける仕組みをつ